

## 第5章 調査結果から考えられること

### 1 自己肯定感を育むもの

#### (1) 小学生、中高生の『得意なものや自信のあるもの』の数

本報告書第4章4(3)においては、得意なものや自信のあるものが1つ以上ある人を「ある群」、ない人を「ない群」としましたが、これらの詳細な回答状況は小学生、中高生において以下の通りとなっています。

小学生では、回答者のうち82.2%が、『得意なものや自信のあるもの』が2つ以上あると回答しており、4つ以上ある人は47.8%、6つ以上ある人は19.2%となっています。回答数の平均値は3.6となっています。

中高生では、『得意なものや自信のあるもの』の回答数の平均値は2.2と、小学生よりも少なくなっています。回答者のうち、『得意なものや自信のあるもの』が3つ以上ある人は38.3%となっています。

これらの回答状況から、本項では次表のとおり、『得意なものや自信のあるもの』の数に応じて、自己肯定感の高さを5段階（「高い」～「低い」）で分類しています。

図 5. 1. 1 『得意なものや自信のあるもの』の数と自己肯定感の強さ

自己 肯定感	得意なものや 自信のあるもの	小学生		得意なものや 自信のあるもの	中高生	
		回答数	回答率		回答数	回答率
高い	6つ以上	130	19.2%	5つ以上	246	21.7%
やや高い	4～5つ	194	28.6%	3～4つ	189	16.6%
普通	2～3つ	233	34.4%	2つ	228	20.1%
やや低い	1つ	92	13.6%	1つ	294	25.9%
低い	なし	25	3.7%	なし	176	15.5%
—	無回答	4	0.6%	無回答	3	0.3%
—	計	678	100.0%	計	1,136	100.0%
—	平均値	3.6	—	平均値	2.2	—

(2) 自己肯定感が高いのはどんな子どもか

○地域活動や野外活動等、多様な経験をしている

小学生において、「今までに体験したこと」の回答数を自己肯定感の高さ別にみると、自己肯定感が高い人ほど、体験したことの数が多くなっています。特に、自己肯定感が高い人の51.5%は、選択肢のうち8個以上を体験したことがあると回答しています。

「近所の子どもたちと参加したことがある行事」の回答数も同様の傾向が見られており、自己肯定感の高い人では、46.9%が4個以上に参加したことがある、と回答しています。

図 5. 1. 2 小学生「今までに体験したこと」の回答数：自己肯定感の高さとの関係

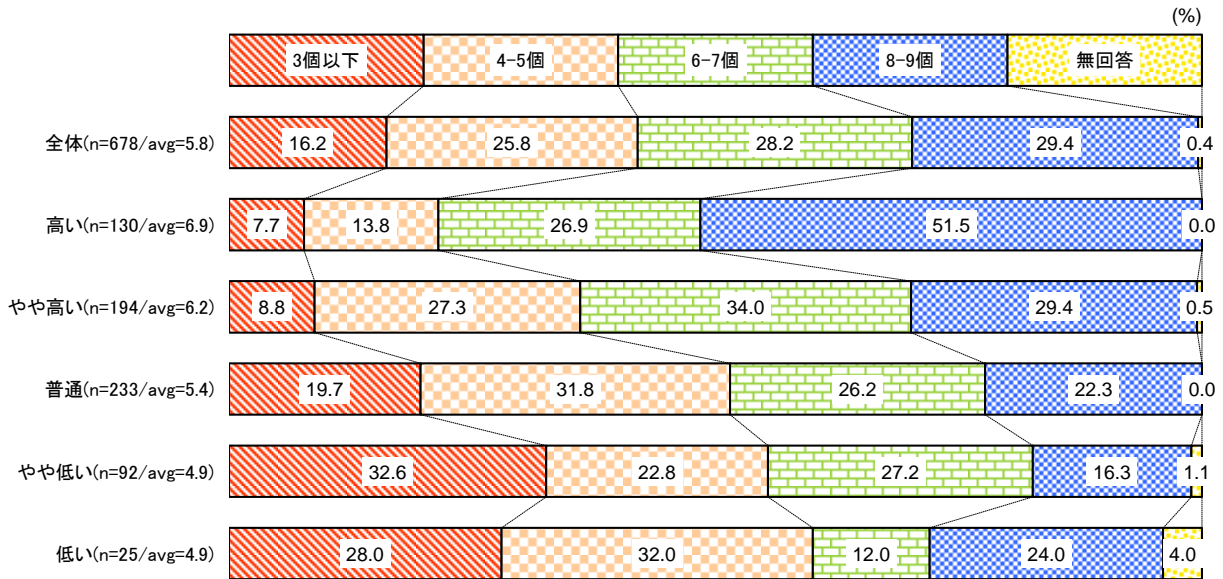
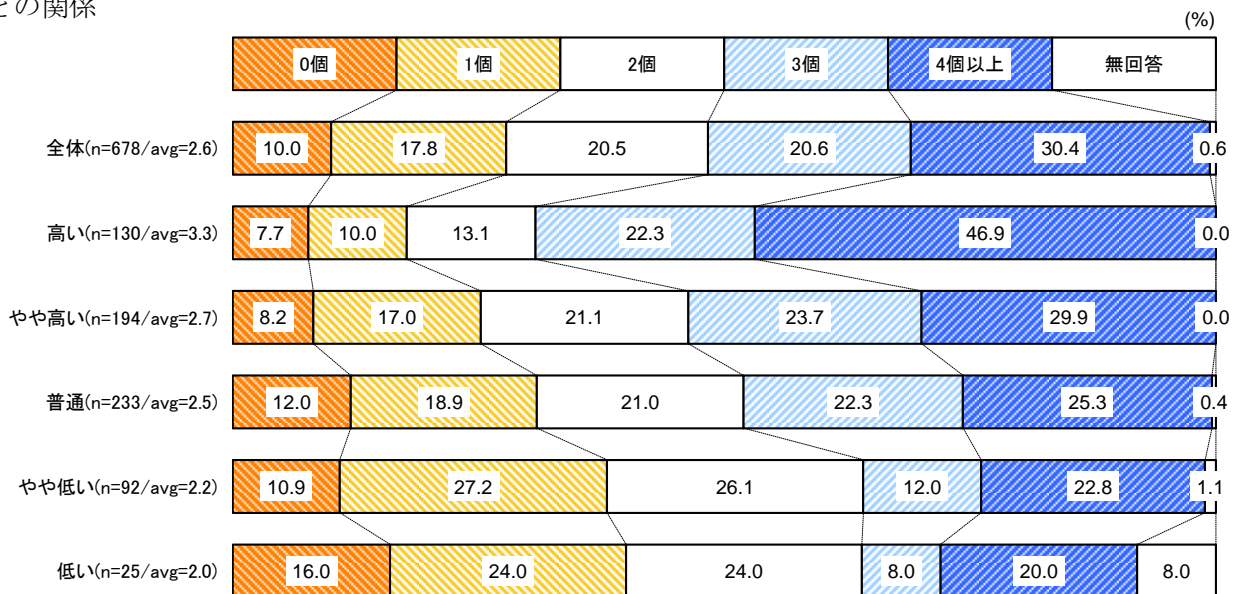


図 5. 1. 3 小学生「近所の子どもたちと参加したことがある行事」の回答数：自己肯定感の高さとの関係



※avg…平均値

中高生においても、「今までに体験したこと」の回答数を自己肯定感の高さ別にみると、自己肯定感が高い人ほど、体験したことの数が多くなっています。特に、自己肯定感が高い人の41.5%は、選択肢のうち8個以上を体験したことがあると回答しています。

「地域活動への参加経験」の回答数も同様の傾向が見られており、自己肯定感の高い人では、35.8%が4個以上に参加したことがある、と回答しています。

図 5. 1. 4 中高生「今までに体験したこと」の回答数：自己肯定感の高さとの関係

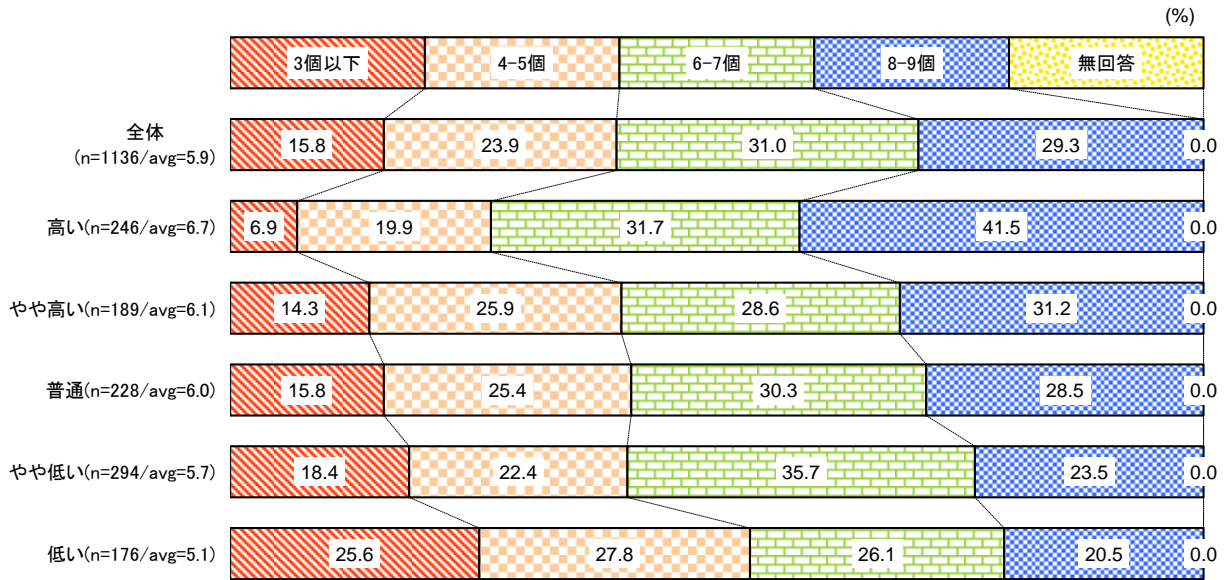
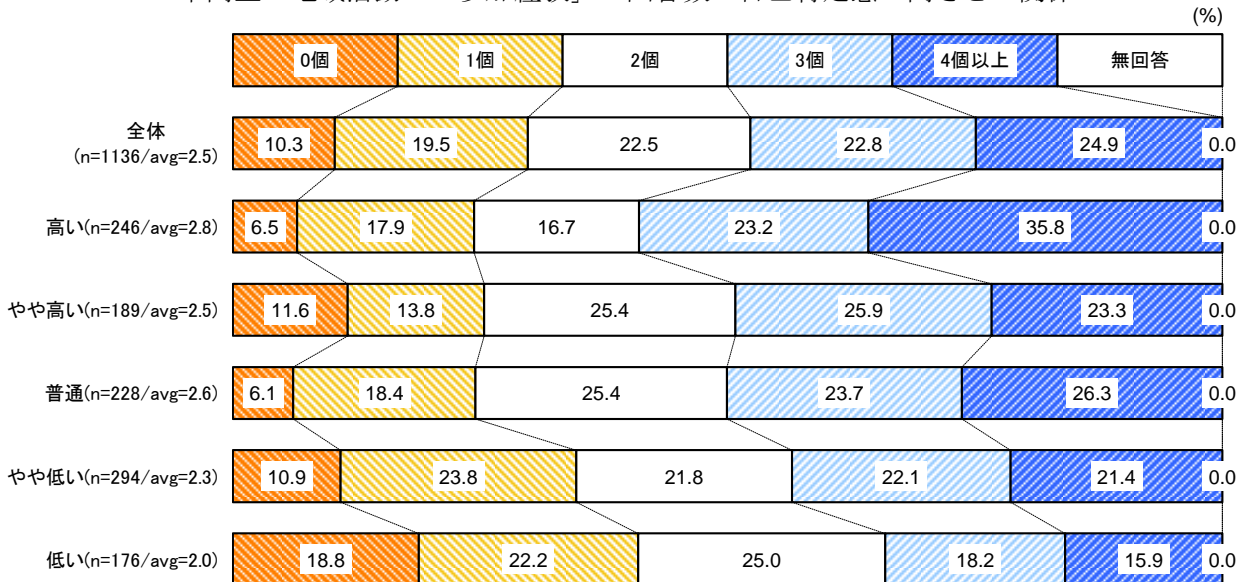


図 5. 1. 5 中高生「地域活動への参加経験」の回答数：自己肯定感の高さとの関係



○両親や家の人と、よく話をしている

自己肯定感の高い人は、両親とよく話をする傾向が見られています。特に、「父親とよく話をするか」においては、小学生では、自己肯定感が高い人では、82.1%が「はい」と回答している一方で、普通の人では72.0%。低い人では42.9%となっています

中高生では、自己肯定感が高い人では「はい」が70.7%、普通の人では61.0%、自己肯定感が低い人では45.3%となっており、小学生と同様に、自己肯定感が高い人ほど父親とよく話す傾向がみられます。

図 5. 1. 6 小学生・父親とよく話をするか：自己肯定感の高さとの関係

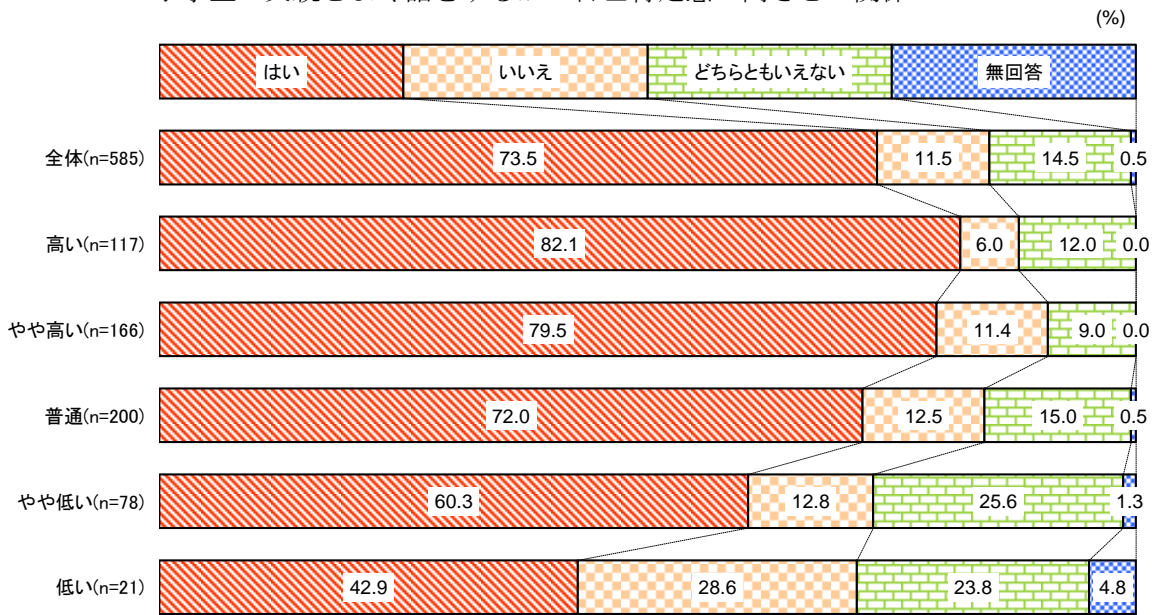
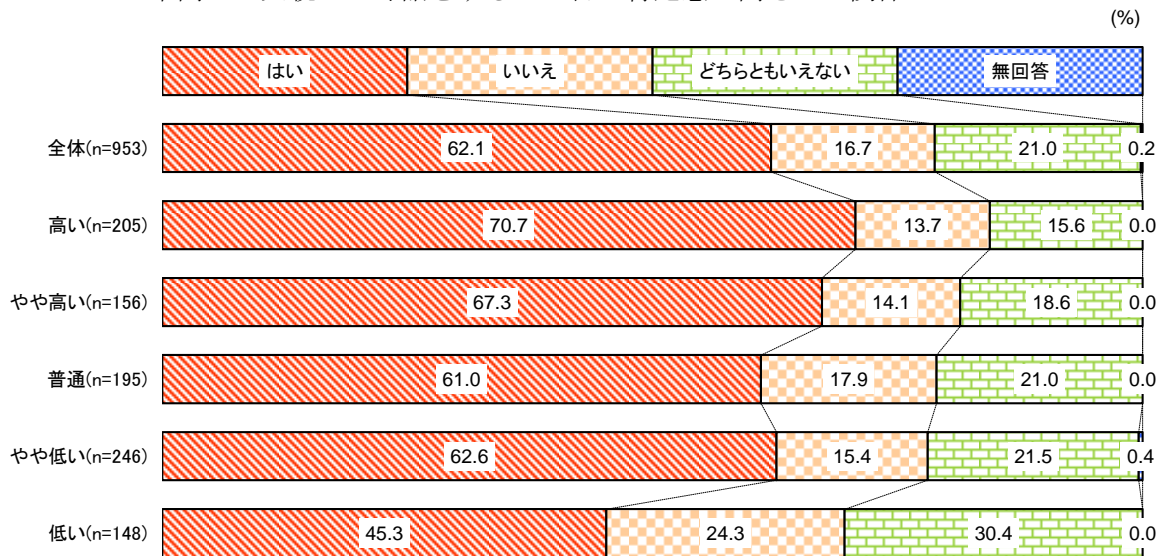


図 5. 1. 7 中高生・父親とよく話をするか：自己肯定感の高さとの関係



○学校生活においておもしろい、楽しいと感じることが多い

小学生において、「学校の授業がおもしろい」と回答した人の割合は、自己肯定感が高い人の 51.5% に対し、普通の人では 33.0%、自己肯定感が低い人では 24.0%となっています。また、「楽しい学校行事が多い」と回答した人の割合も同様に、自己肯定感が高い人では 56.2%、普通の人では 41.6%、自己肯定感が低い人では 20.0%と、自己肯定感が高い人ほど、学校の授業や学校行事などの学校生活に面白さ、楽しさを感じていることがわかります。

図 5. 1. 8 小学生「学校の授業がおもしろい」：自己肯定感の高さとの関係

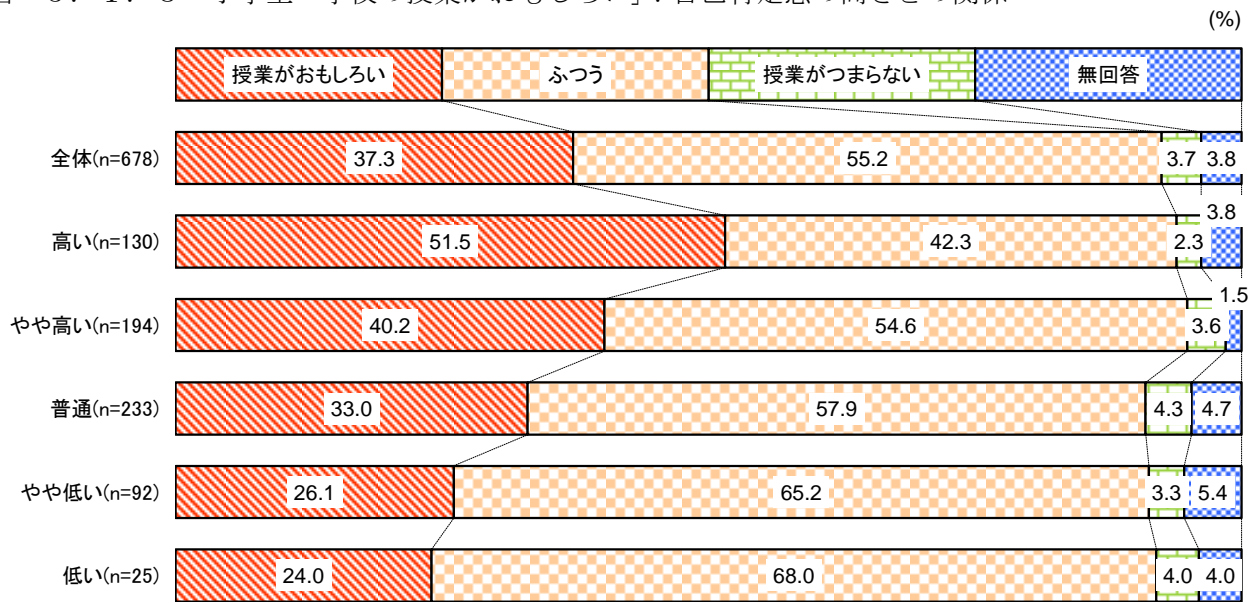
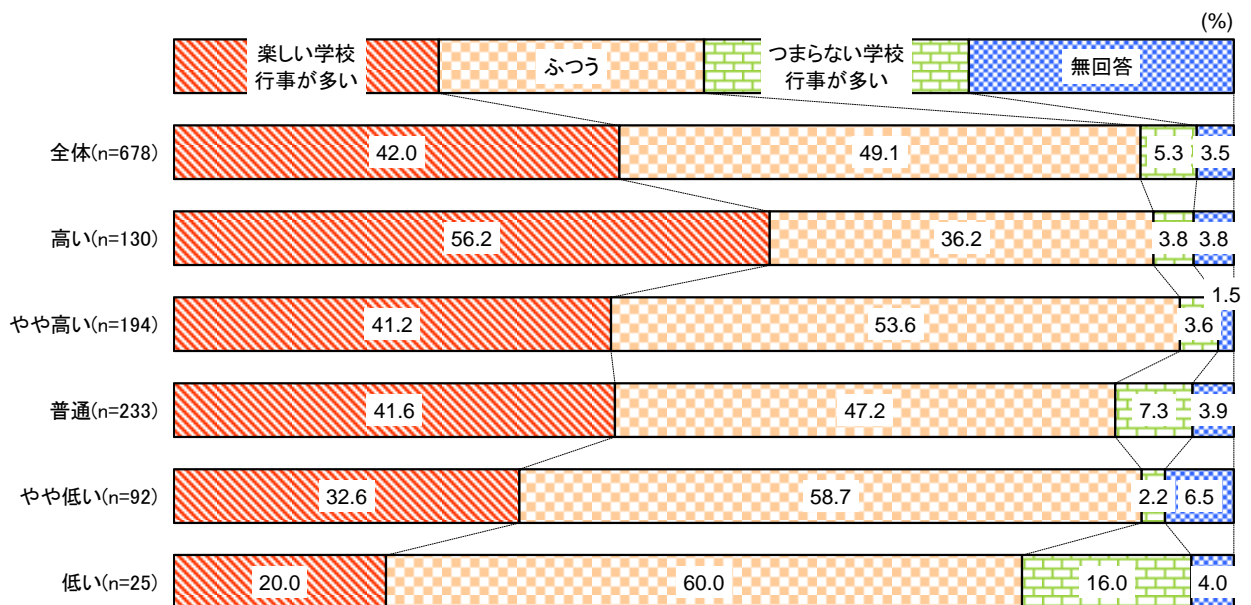


図 5. 1. 9 小学生「楽しい学校行事が多い」：自己肯定感の高さとの関係



中高生では、「クラブや部活が楽しい」と回答した人の割合は、自己肯定感が高い人で 56.1%、普通の人で 47.4%、自己肯定感が低い人で 27.8%となっています。

また、「座席が気の合わない人と隣になった時の考え」では、「何とか仲良くやっ払いこうとする」と回答した人は、自己肯定感が高い人で 71.5%、普通の人で 59.6%、自己肯定感が低い人で 46.6%と、自己肯定感が高い人ほど、前向きな考えであることがわかりました。

図 5. 1. 10 中高生「クラブや部活が楽しい」：自己肯定感の高さとの関係

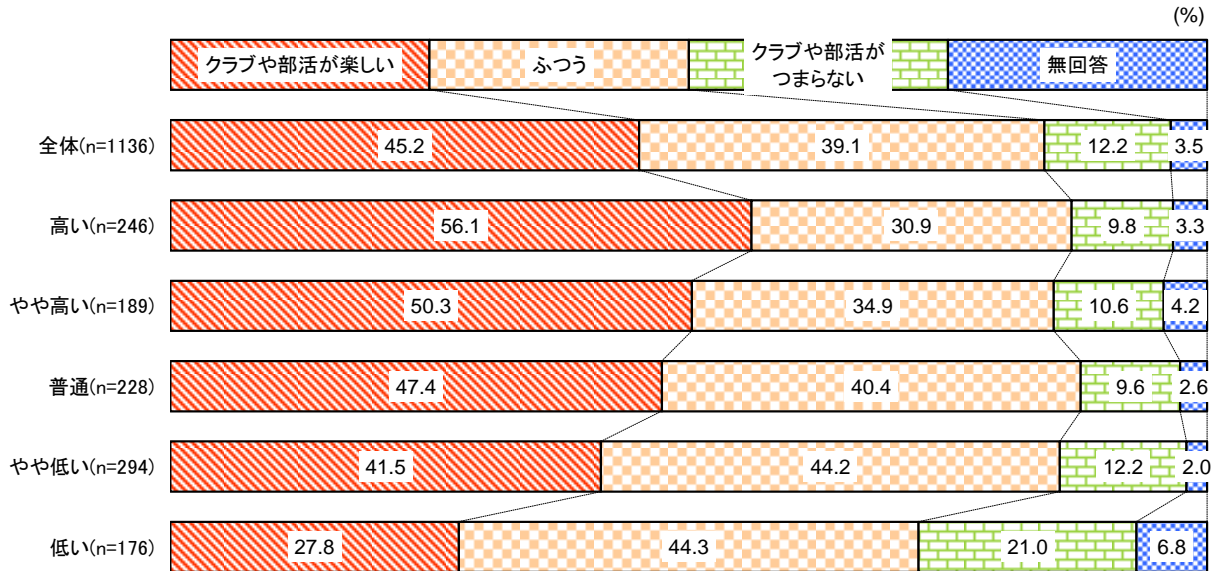
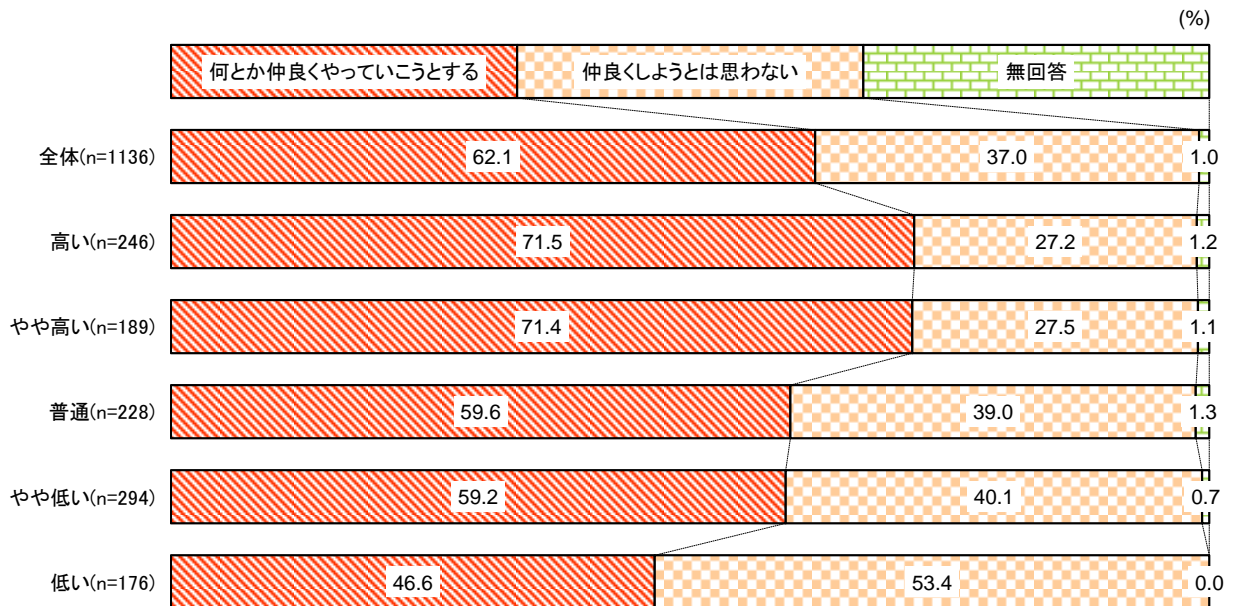


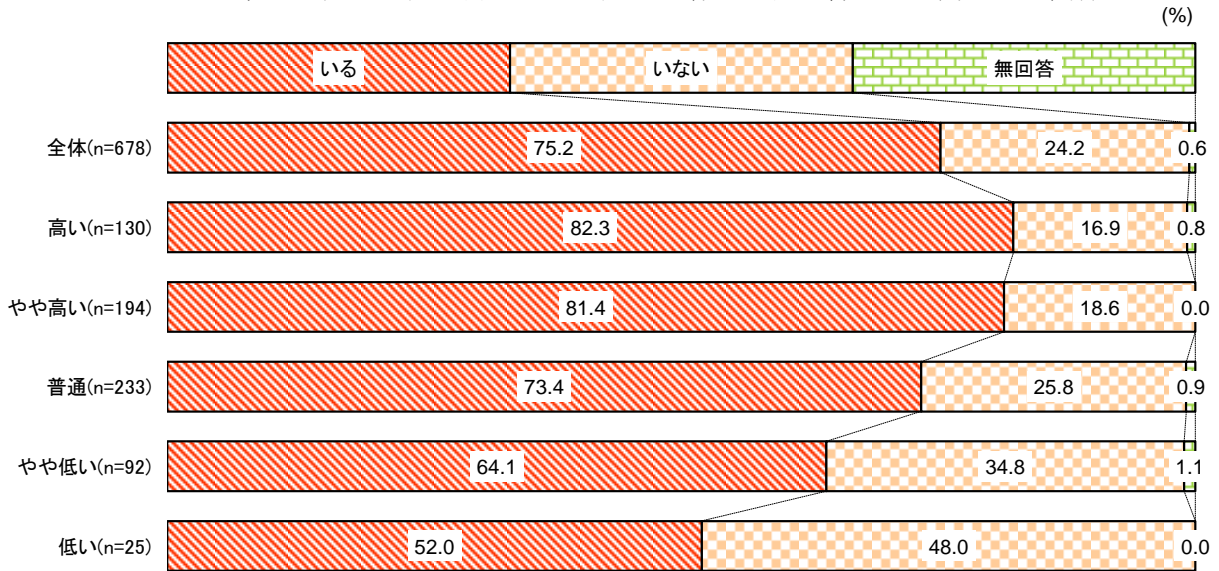
図 5. 1. 11 中高生 気の合わない人の隣になった時：自己肯定感の高さとの関係



○友人関係が充実している

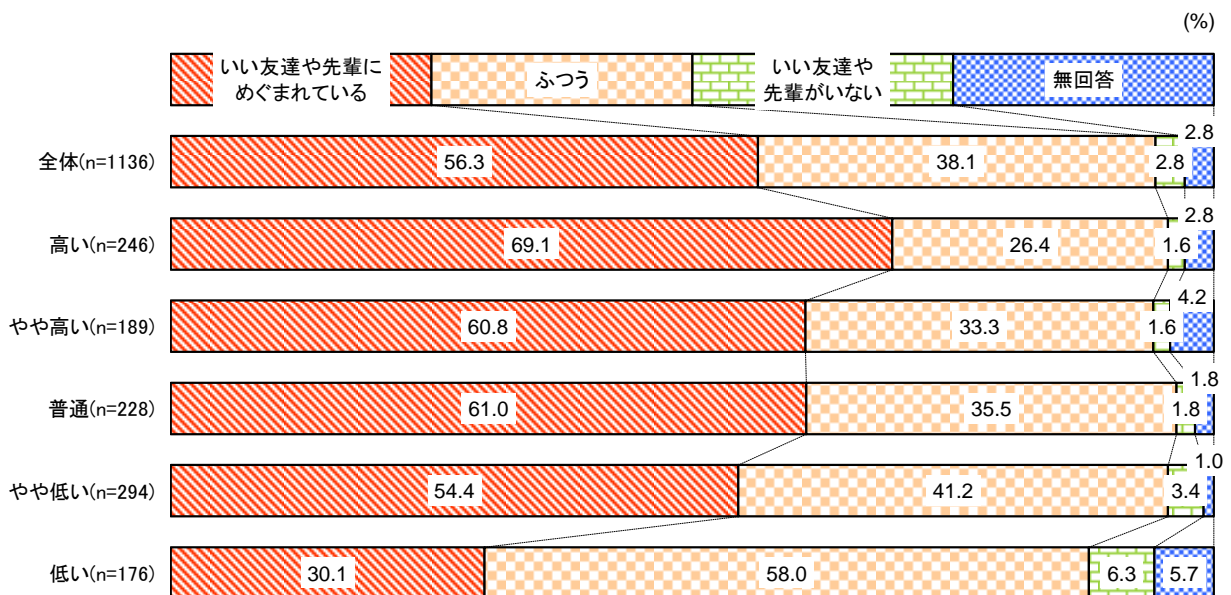
小学生において、「何でも打ち明けられる友達がいる」と回答した人の割合は、自己肯定感が高い人では82.3%であるのに対し、普通の人では73.4%、自己肯定感が低い人では52.0%となっています。

図 5. 1. 1 2 小学生 何でも打ち明けられる友達の有無：自己肯定感の高さとの関係



中学生では、「いい友達や先輩にめぐまれている」と回答した人の割合は、自己肯定感が高い人では69.1%に対し、普通の人では61.0%、自己肯定感が低い人では30.1%となっています。

図 5. 1. 1 3 中学生 いい友達やいい先輩にめぐまれている：自己肯定感の高さとの関係



(3) 自己肯定感を高めることが重要な理由

○困難な状況（自分がいじめられた時など）を解決しようとする力がある

小学生、中高生ともに、自己肯定感の高い人ほど、自分がいじめられた時に、「いじめている人たちに『やめて』と言う」など、いじめを解決しようとする行動をとると回答した割合が高くなっています。

図 5. 1. 14 小学生 自分がいじめられた時の行動（一部抜粋）：自己肯定感の高さとの関係

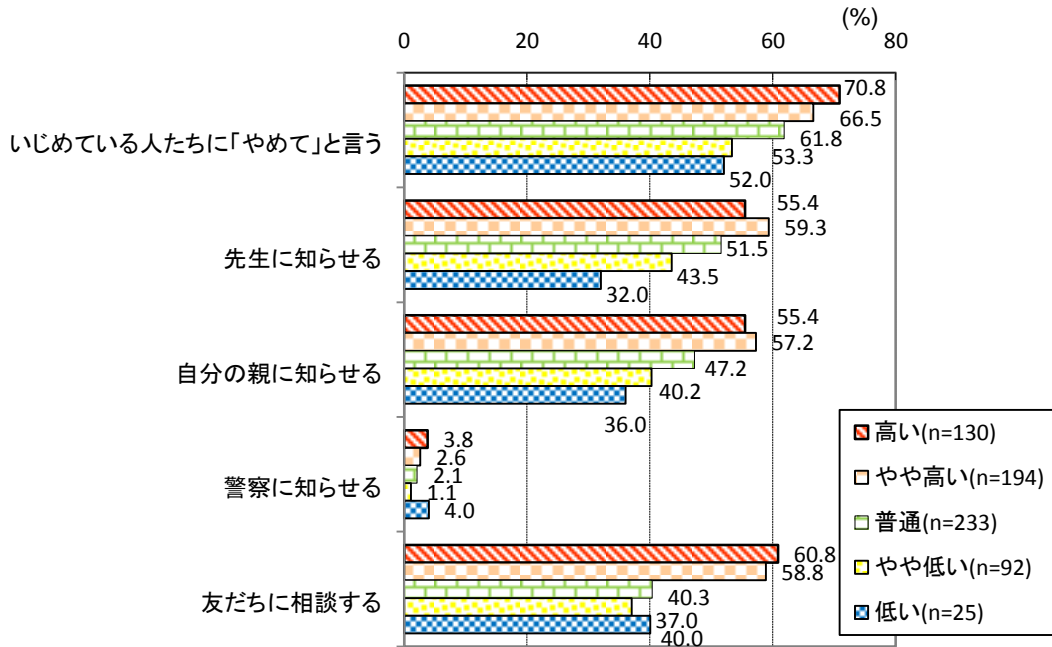
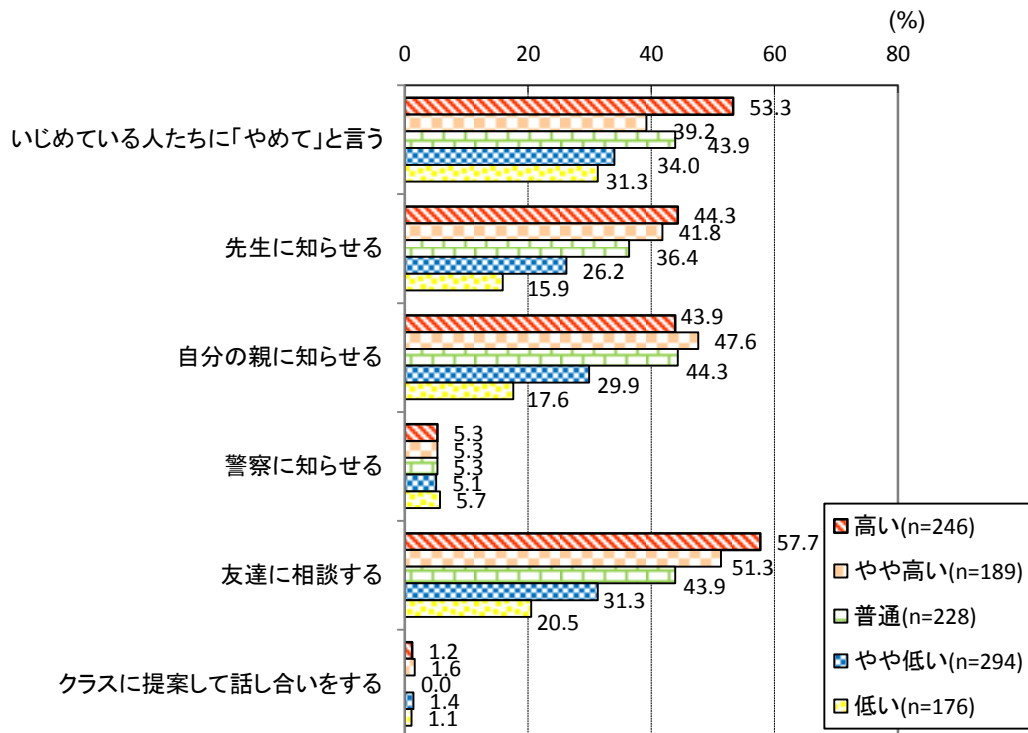


図 5. 1. 15 中高生 自分がいじめられた時の行動（一部抜粋）：自己肯定感の高さとの関係





○将来に対する希望を持っている

小学生、中高生ともに、自己肯定感が高い子どもは、学校で勉強をする理由として、「大きくなったら好きな仕事をしたい」と回答する割合が高くなっています。

また、中高生では「立派な大人になりたいから」「世の中の役に立ちたいから」においても、自己肯定感が『高い』『やや高い』子どもは、『やや低い』『低い』子どもよりも高い割合を示しており、将来に対する希望を持ち、学校で勉強することを前向きに捉えられていると考えられます。

図 5. 1. 16 小学生 学校で勉強をする理由「大きくなったら好きな仕事をしたいから」：自己肯定感の高さとの関係

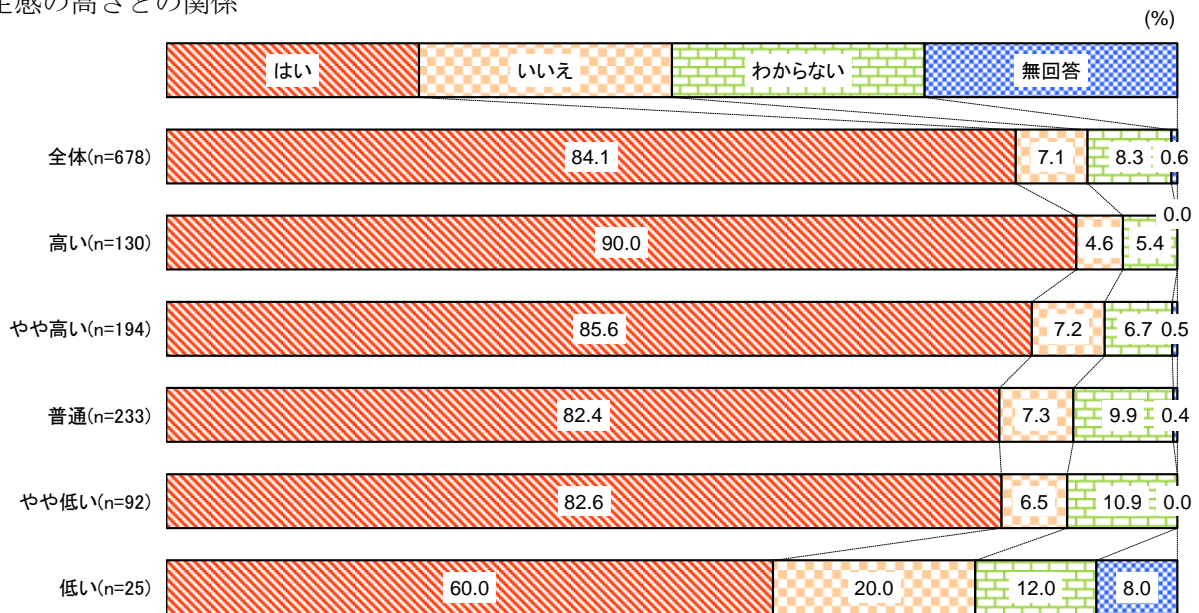
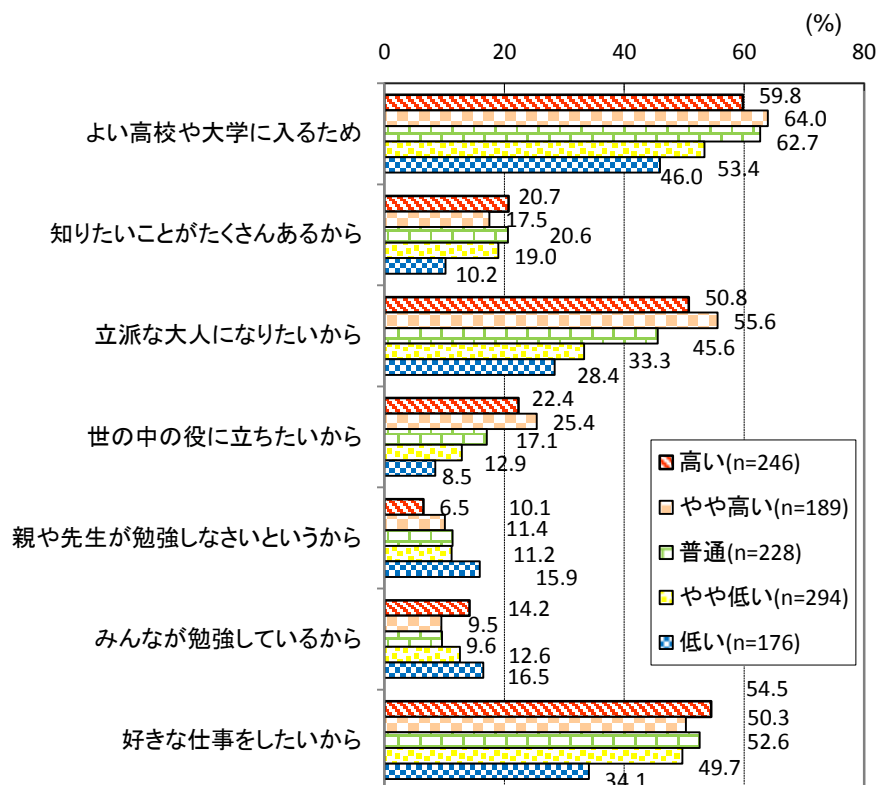


図 5. 1. 17 中高生 学校で勉強をする理由：自己肯定感の高さとの関係



#### (4) 子どもの自己肯定感を高めるために必要なこと

##### ○子どもに多様な経験をさせてあげること

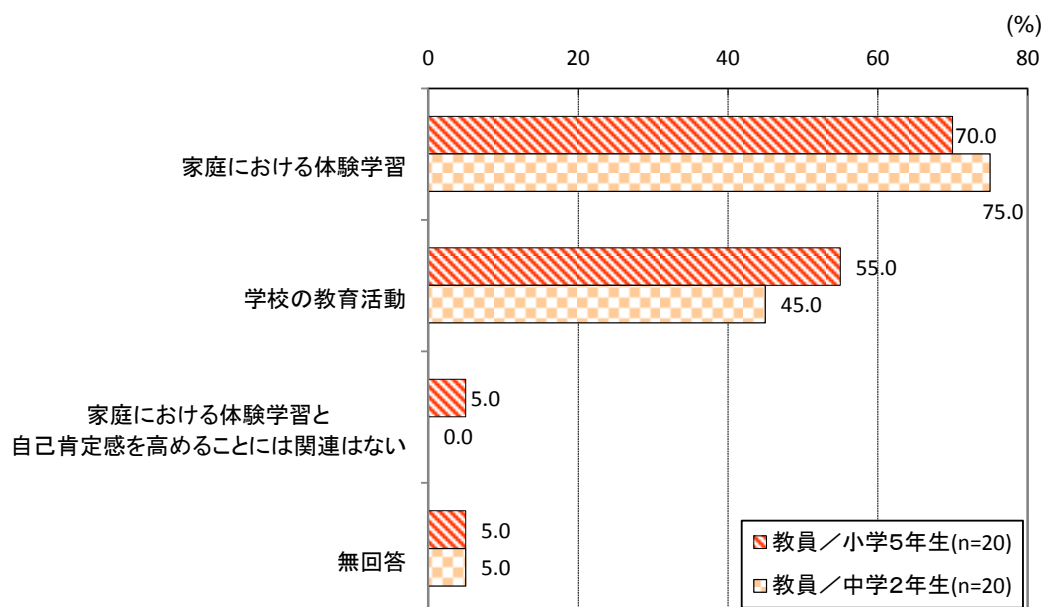
調査結果より、地域活動によく参加している子どもや、さまざまな野外での活動に参加している子どもは、『得意なものや自信のあるもの』を多く回答しており、自己肯定感が高くなっています。

これは、さまざまな地域活動に参加し、地域の人と関わることや、家庭や学校では体験することができない多様な経験を積み重ねることで、子どもにとっての自信や自己肯定感に繋がっているのだと考えられます。

##### <教員の意見：家庭における体験学習が重要>

小学校、中学校の教員の意見へのアンケート結果をみると、子どもの自己肯定感を高めるために必要なこととして、「家庭における体験学習」を小学校の教員の70.0%、中学校の教員の75.0%が回答しており、また「家庭における体験学習と自己肯定感を高めることには関連はない」は小学校の教員の5.0%にとどまっています。

図 5. 1. 18 教員の意見：子どもの自己肯定感を高めるために必要なこと（再掲）

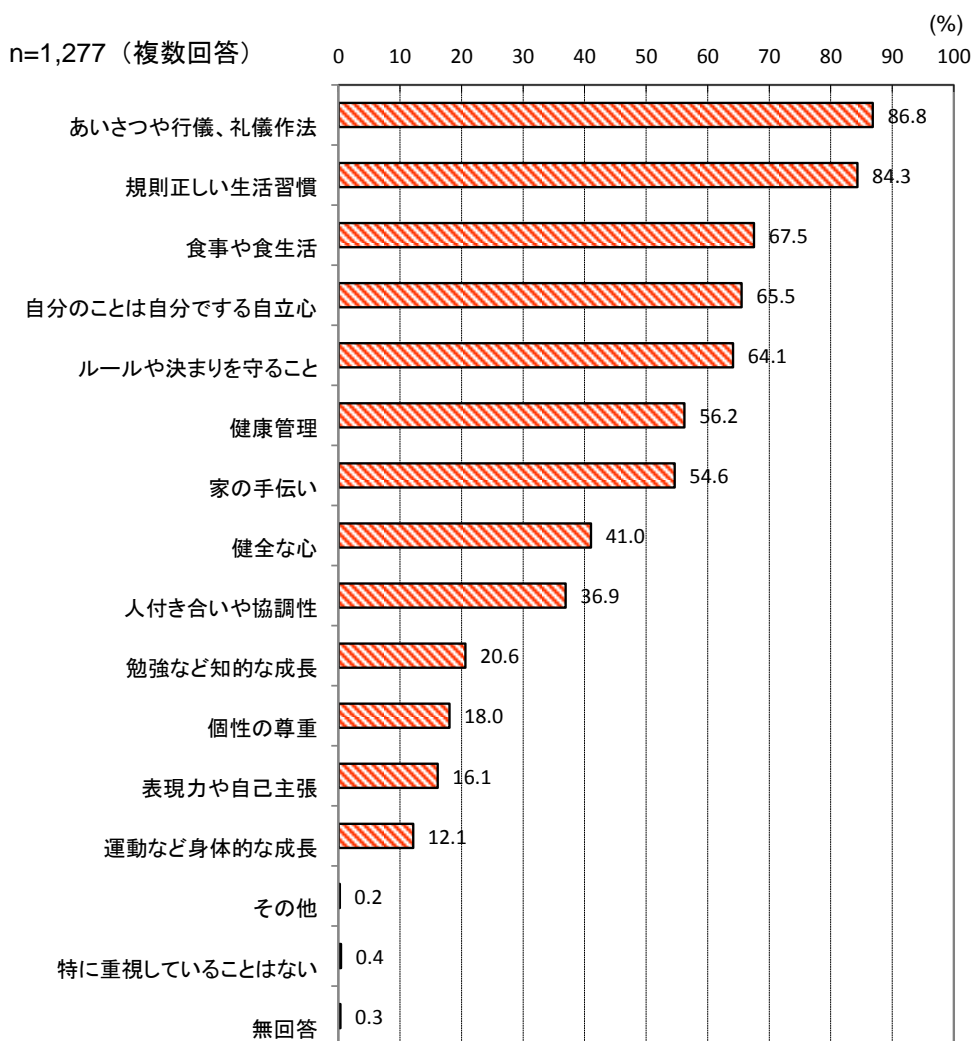


また、具体的な体験としては、「キャンプをしたこと」「自分の力で大きな木に登ったこと」「海や川でおよいだこと」「海や川で貝をとったり魚をつったりしたこと」が挙げられています。この中で、特に「キャンプをしたこと」や「海や川で貝をとったり魚をつったりしたこと」は、子ども一人で行うことは難しく、家族や大人が介在しなくては経験できないものであり、子どもだけでなく大人が介在することで、体験学習により学ぶ機会を子どもに与えることが重要だと考えることができます。

##### <保護者の意見：教育の場は学校が基本>

一方で、保護者の意見をみると、家庭で身につけるべき重要なこととして、「あいさつや行儀、礼儀作法」、「規則正しい生活習慣」、「自分のことは自分でする自立心」、等が挙げられていますが、「勉強など知的な成長」、「運動など身体的な成長」を挙げた人は低く、こうした教育は学校の役割だと考えられていることが見受けられます。

図 5. 1. 19 保護者の意見：家庭で身につけるべき重要なこと



＜学校だけ、家庭だけではなく、さまざまな形で体験学習の機会をつくる＞

子どもに多様な体験学習の機会を与えるには、親や周囲の大人が中心となり、家庭での体験学習の機会をつくることとともに、家庭の事情等により、家庭での体験学習の機会をつくるのが難しい子どももいることから、学校での体験学習の機会も、より充実させていく必要があると考えられます。

また、自己肯定感が低く、学校行事としての体験学習への参加に積極的ではない子どもへの対応策として、親子や祖父母と共に参加、体験できる取組としていくことが考えられます。

## 2 「結婚についての考え方」と就労状況や就労意識

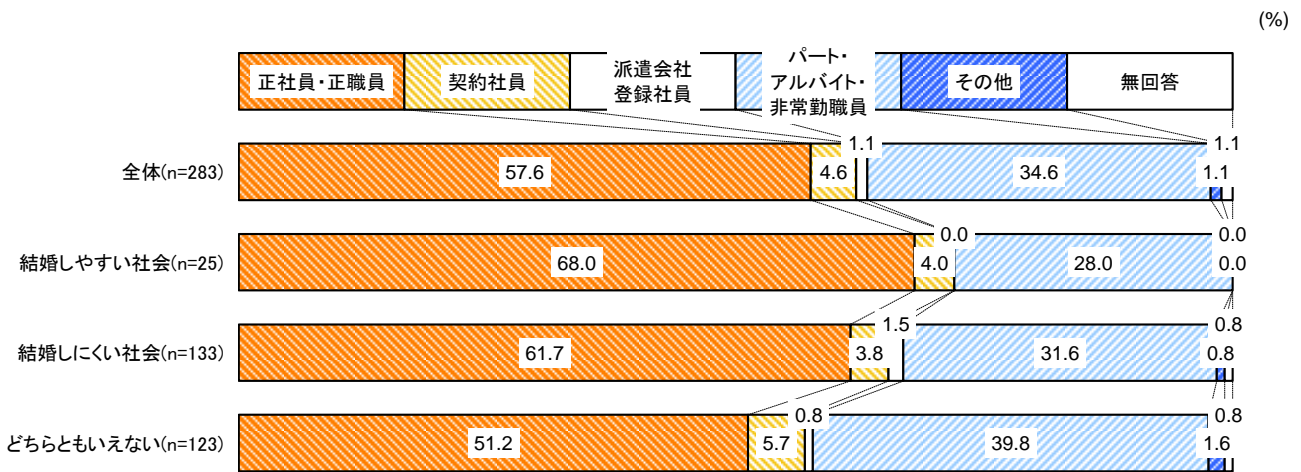
### (1) 結婚についての考え方と就労状況や就労についての考え方との関係

報告書第4章4(13)アの、「結婚しやすい社会かどうか」の回答状況(「結婚しやすい社会」「結婚しにくい社会」「どちらともいえない」と、就労状況や就労についての考え方の設問の回答状況をみると、以下の結果がみられています。

#### ○「結婚しやすい社会」と感じている人は、正社員・正職員が多い

青年の、初めて就いた職業の雇用形態を、結婚についての考え方別にみると、「正社員・正職員」の割合は『結婚しやすい社会』と回答した人の68.0%、『結婚しにくい社会』と回答した人と回答した人の61.7%、『どちらともいえない』と回答した人の51.2%となっています。

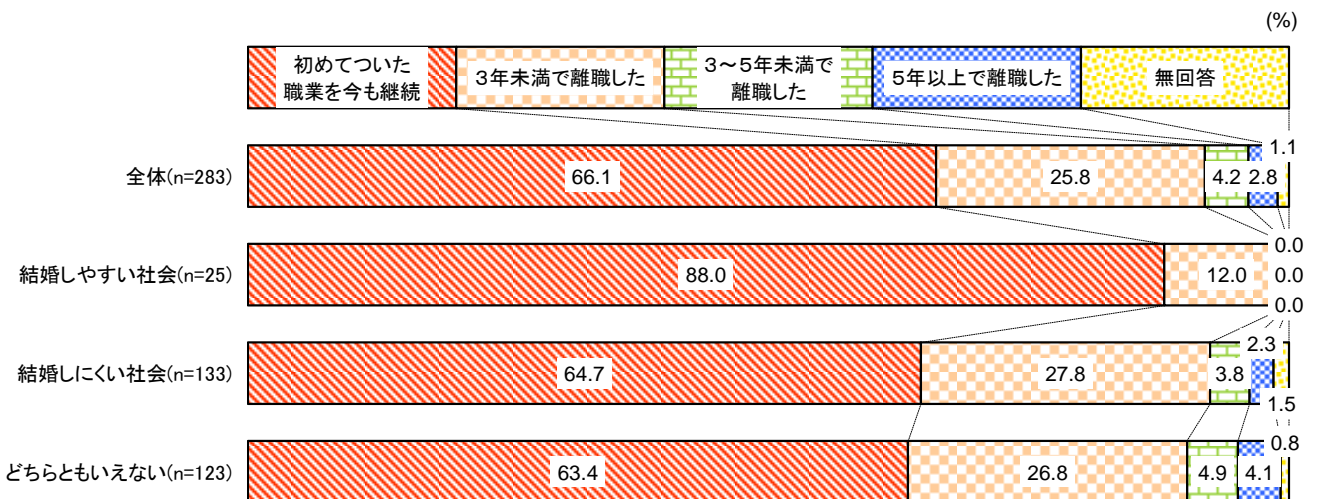
図 5. 2. 1 青年 初めて就いた職業の雇用形態：結婚についての考え方との関係



#### ○「結婚しやすい社会」と感じている人は、初めて就いた職業を継続している人が多い

『結婚しやすい社会』と回答した人の88.0%は、初めて就いた職業を継続しています。『結婚しにくい社会』と回答した人では、初めて就いた職業を継続している人は64.7%で、また「3年未満で離職した」人が27.8%となっています。

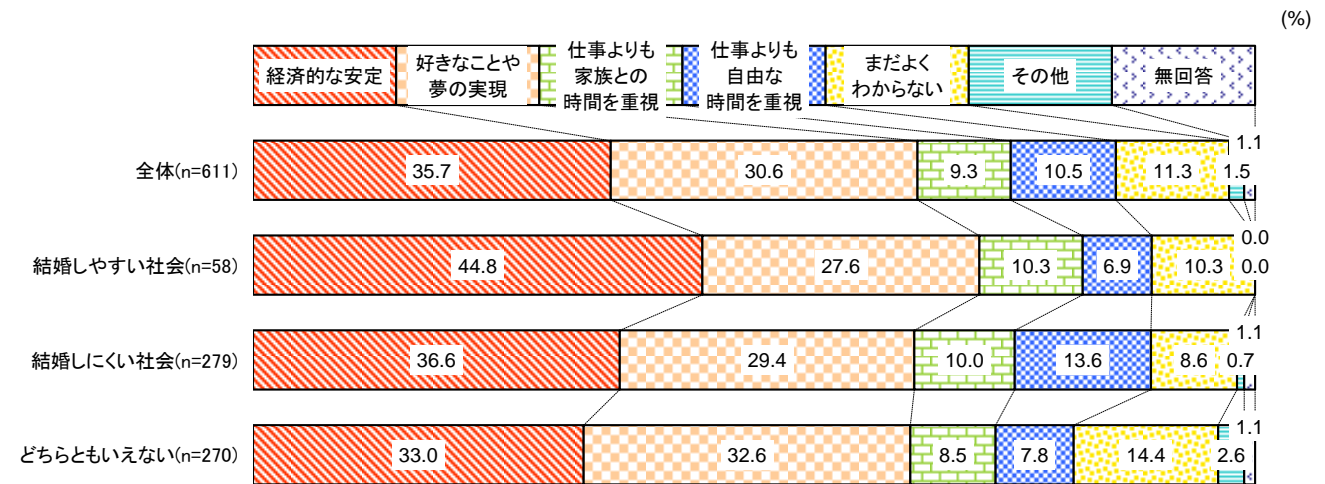
図 5. 2. 2 青年 初めて就いた職業の継続期間：結婚についての考え方との関係



○「結婚しやすい社会」と感じている人は、経済的な安定を望んでいる

これからの暮らしの意向について、『結婚しやすい社会』と回答した人の44.8%は、「経済的な安定」としており、『結婚しにくい社会』と回答した人の36.6%、『どちらともいえない』と回答した人の33.0%を上回っています。一方、『結婚しにくい社会』と回答した人は、「仕事よりも自由な時間を重視」が13.6%とやや高くなっています。

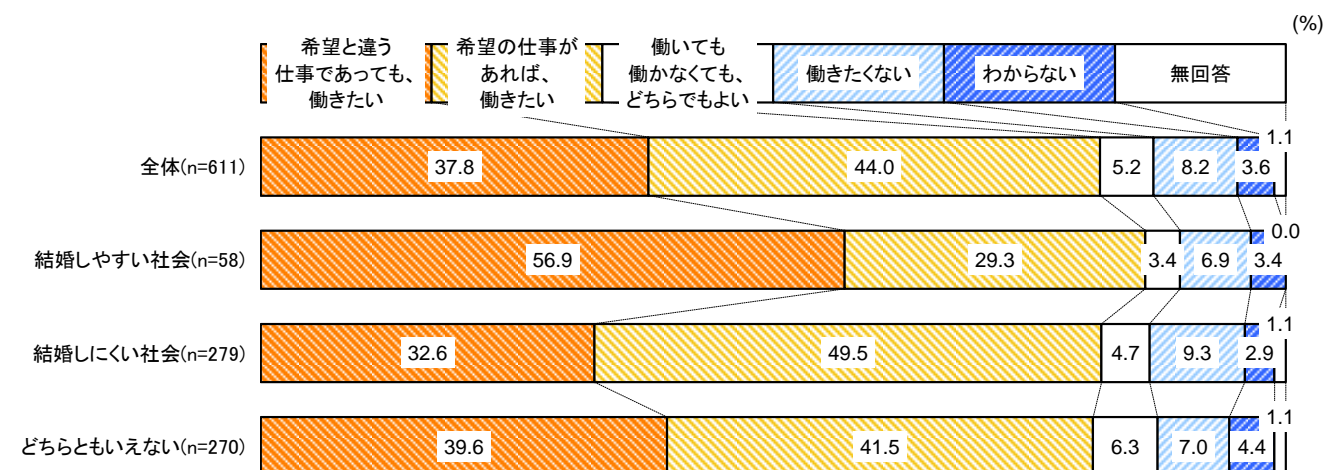
図 5. 2. 3 青年 これからの暮らしの意向：結婚についての考え方との関係



○「結婚しやすい社会」と感じている人は、希望と違う仕事であっても働きたい

就労についての考え方において、『結婚しやすい社会』と回答した人の56.9%は、「希望と違う仕事であっても、働きたい」としており、『結婚しにくい社会』と回答した人の32.6%、『どちらともいえない』と回答した人の39.6%を上回っています。

図 5. 2. 4 青年 就労について：結婚についての考え方との関係

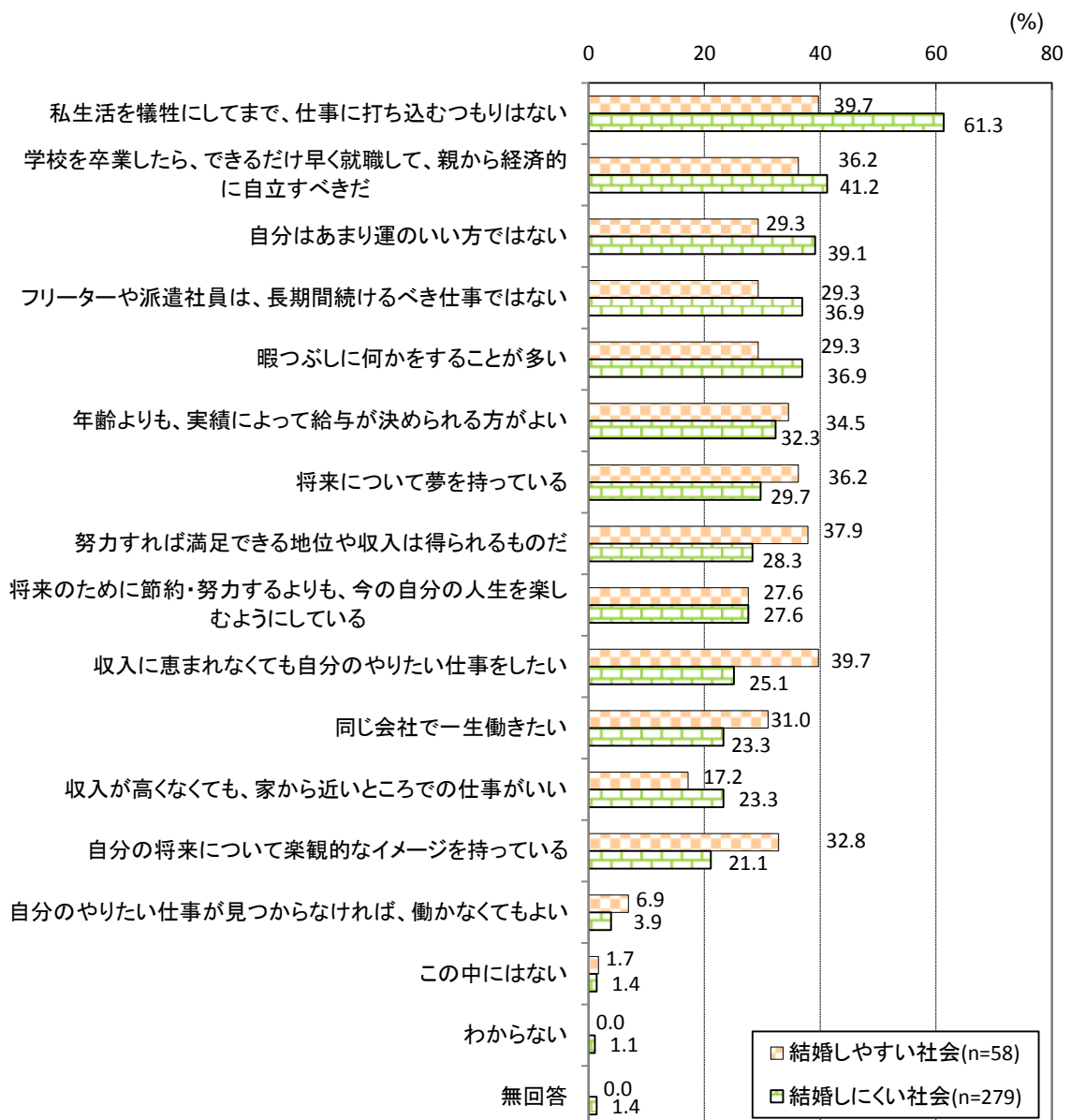


○「結婚しやすい社会」と感じている人は、仕事において努力することや継続することを重視している

自分の考え方や生き方にあてはまるものについて、『結婚しやすい社会』と回答した人は、『結婚しにくい社会』と回答した人よりも、「同じ会社で一生働きたい」「収入に恵まれなくても自分のやりたい仕事をしたい」「努力すれば満足できる地位や収入は得られるものだ」「自分の将来について楽観的なイメージを持っている」といった回答が高くなっています。

一方、『結婚しにくい社会』と回答した人は、『結婚しやすい社会』と回答した人よりも、「私生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない」「フリーターや派遣社員は、長期間続けるべき仕事ではない」といった回答が高くなっています。

図 5. 2. 5 青年 自分の考え方や生き方にあてはまるもの：結婚についての考え方との関係



## (2) 「結婚しやすい社会」と感じている人はどんな人か

### ○やりたい仕事のイメージを持ちつつ、働くことや暮らしについて現実的な考え方をしている

『結婚しやすい社会』と回答した人は、『結婚しにくい社会』と回答した人、『どちらともいえない』と回答した人よりも、自分の考え方や生き方にあてはまるものについて、「収入に恵まれなくても自分のやりたい仕事をしたい」の割合が高くなっています。また、これからの暮らしの意向について、「経済的な安定」の割合が高くなっており、就労についての考え方では「希望と違う仕事であっても、働きたい」の割合が高くなっています。

これらの回答状況から、『結婚しやすい社会』と回答している人は、『結婚しにくい社会』と回答した人に比べ、やりたい仕事のイメージを明確に持っており、なおかつ現実的な考え（経済的な安定、希望の仕事でなくとも働く、等）も持ち合わせていると考えられます。

### ○雇用や就労状況が安定している

『結婚しやすい社会』と回答した人は、『結婚しにくい社会』と回答した人、『どちらともいえない』と回答した人よりも、正社員で働いている割合が高く、また初めて就いた職業を継続している人が高くなっています。

一方で、『結婚しにくい社会』と回答した人は、『結婚しやすい社会』と回答した人よりも、「フリーターや派遣社員は、長期間続けるべき仕事ではない」の割合が高くなっていますが、正社員で働いている割合は低く、契約社員や、パート・アルバイト・非正規社員で働いている割合が高くなっています。

これらの回答状況から、『結婚しやすい社会』と回答している人は、『結婚しにくい社会』と回答した人と回答している人に比べ、雇用や就労状況が安定していると考えられます。

## (3) 若者が結婚しやすい社会だと感じられるようにしていくために必要なこと

上記のことから、若者が結婚しやすい社会だと感じられるかどうかは、働くことに対する意識や、就労状況が関係していることがわかります。

今後、若者が結婚しやすい社会にしていくためには、就労状況を改善する取組とともに、やりたい仕事のイメージを持つことや、働くことの重要性など、就労に関わる教育により力を入れていくことが有効だと考えられます。